

第5回 マルチモダリティシンポジウム
Versus

参加費：1,000円

血管を診る

2007年
5月19日(土)12:30~19:20

千里ライフサイエンスセンター 5F ライフホール
大阪府豊中市新千里東町1-4-2

当番世話人：

船橋 正夫 (大阪府立急性期・総合医療センター 画像診断科)
大阪市住吉区万代東3-1-56 TEL:06-6692-1201 (内線:7367)

共催：マルチモダリティシンポジウム"Versus"／エーザイ株式会社

後援：(社)日本放射線技術学会 近畿部会／(社)大阪府放射線技師会

研究会ホームページ：<http://www1.odn.ne.jp/ccr45330/>

血管を診る

プログラム

12:30～

開会挨拶: 船橋 正夫(大阪府立急性期・総合医療センター)

12:40～13:00

エーザイ情報提供

13:00～15:40

シンポジウム1

描出の限界を探る

座長: 石田 智一 先生(福井大学医学部附属病院)

土橋 俊男 先生(日本医科大学付属病院)

【Angio/DSA】市田 隆雄 先生(大阪市立大学医学部付属病院)

【CT-angiography】平 野 透 先生(札幌医科大学付属病院)

【MR-angiography】山本 晃義 先生(戸畑共立病院)

【超音波】松原 馨 先生(東京慈恵会医科大学附属第三病院)

【核医学】長木 昭男 先生(倉敷中央病院)

15:40～16:10

休憩

16:10～17:50

シンポジウム2

プラークを診る

座長: 井田 義宏 先生(藤田保健衛生大学病院)

【CT】平 野 透 先生(札幌医科大学付属病院)

【MRI】田 渕 隆 先生(メディカルサテライト八重洲クリニック)

【超音波】久米 伸治 先生(日比野病院)

17:50～18:10

休憩

18:10～19:10

特別講演

大血管治療の最前線

座長: 船橋 正夫(大阪府立急性期・総合医療センター)

演者: 倉谷 徹 先生(大阪大学大学院医学系研究科 先進心血管治療学講座 助教授)

ご挨拶

当番世話人：船橋 正夫(大阪府立急性期・総合医療センター)

バーサス開催5回目にして遂に関西初上陸の運びとなりました。この5年の歳月の中、当研究会は超実践マニュアルシリーズを上梓し、出版を行うという研究会としての新しい形を模索しつつ発展して参りました。今回のバーサスのテーマは「血管」です。血管や血流の描出は永くアンジオグラフィーが王道として用いられてきましたが、近年のCTの多列化・MRの高速化によって低侵襲的検査の時代を迎えようとしています。診察室で得られる超音波画像の精度や描出能はどうなのでしょう。核医学分野における血管・血流の評価とはどのようなものなのでしょう。また、各モダリティの診断範囲は拡大の一途を辿っており、血管の描出だけ

ではなくプラークの性状判定にまで及んでいます。今まさにバーサスすべき時を迎えたと言えるでしょう。

そして、血管描出の集大成として血管治療があります。今回は大血管治療の最前線の状況を大血管ステントの第一人者であられる倉谷徹先生に特別講演を御願い致しました。

このように、「これがバーサスだ!」というシンポジストの皆さんにご結果頂きました。是非多くの皆様に来阪いただき、春から初夏に向かう浪速の味と街の風をご堪能ください。幹事一同心よりお待ちしております。

描出の限界を探る

シンポジウム1

座長抄録：土橋 俊男(日本医科大学付属病院 放射線科)

石田 智一(福井大学医学部附属病院 放射線部)

第5回マルチシンポジウムVersusが「血管を診る」というテーマで開催されます。シンポジウム1では、「描出の限界を探る」というタイトルで5種類のモダリティでversusします。アンジオ、CT、MRI、RIそして超音波について、各モダリティの検査目的は何か、弱点は何か、また、最新技術などについて講演していただいた後に、討論を通して技術的な観点からそれぞれのモダリティの特徴を明確にしたいと思います。例えば、アンジオは血流があれば如何なる部位の血管でも撮像できます。しかしながら、目的部位までカテーテルを進める必要があり、患者さんに対する侵襲性が高い検査と言えます。一方、MRIでは造影剤を使用せずに寝ているだけで血管を描出可能であり、低侵襲的な検査手法と言われています。しかしながら、血管その

ものを画像化しているわけではなく、あくまでも血液の流れや位相を利用して画像化しています。また、RIでは血管というよりも臓器の血流と機能の描出が中心となります。この様に、それぞれのモダリティには特徴があり、同じ血管描出という目的であっても得られる結果は大きく異なる可能性があります。これらを踏まえた上で、皆様との討論により各モダリティの特徴および使い分けを明確にしたいと思います。

このシンポジウムは、演者と皆様の討論が主のシンポジウムです。討論時間も60分と十分要してあります。是非このシンポジウムに参加して頂き、皆様と意見交換したいと思います。宜しく願ひいたします。

プラークを診る

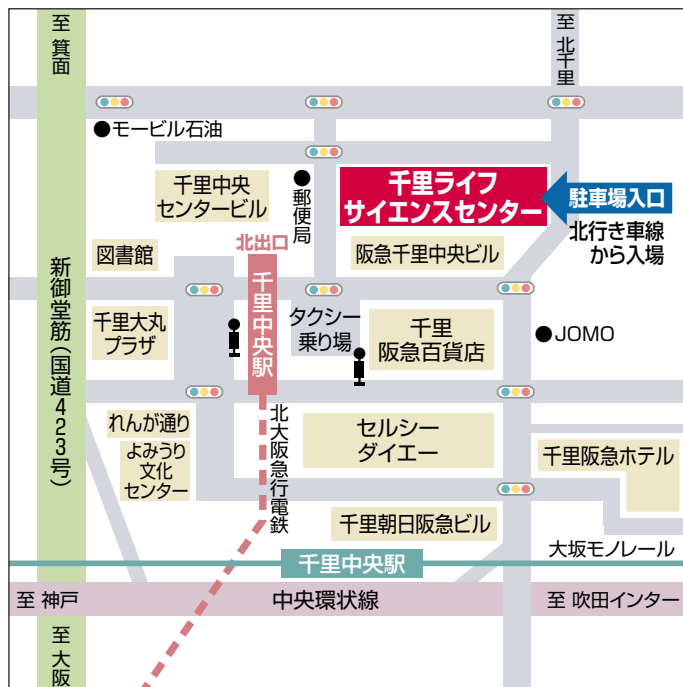
シンポジウム2

座長抄録：井田 義宏(藤田保健衛生大学病院 放射線部)

脳梗塞・心筋梗塞の原因の一つは、血管壁に生じる不安定なプラークの破綻によるものといわれています。また、近年この破綻しやすい不安定プラークの病理学的特徴が、①血管の代償性拡大、②薄い線維性皮膜、③脂質に富む、④軽度の血管狭窄 ⑤マクロファージの浸潤などと報告されています。このため最近では脳梗塞や心筋梗塞の不幸なイベントを予測する上においても不安定プラークの診断が注目を集めています。今回、このシンポジウムではこれらのプラークをCT、MRI、USで画像化した場合の特徴を考えていこうと思っています。3種類のモダリティはそれぞれ「X線透過率」、「磁気共鳴」、「超音波の反射」を画像化の

原理としているので、組織の識別能や空間分解能、時間分解能、再現性などに違いがあります。これらを比較のしやすい頸動脈を中心に議論を行う予定です。具体的にはCTでは形態情報の優れた点を中心に、MRIでは多彩なシーケンスによる画像コントラストが病理をどのように反映しているか、USでは動態の把握や組織との対比などに関して発表していただき、さらにそれぞれの最新情報を加えて、診断から治療において各モダリティがどのような役割を担うべきかなどを考え、厚みのあるシンポジウムを行いたいと考えています。

■会場案内図



交通アクセス

公共交通機関でお越しの方へ

■新大阪駅より【約20分】

地下鉄御堂筋線(北大阪急行)
千里中央行き: 千里中央下車 徒歩約5分

■伊丹空港より【約20分】

大阪モノレール
門真市行き: 千里中央駅下車 徒歩約5分

乗用車でお越しの方へ

新御堂筋(国道423号線)、中央環状線(大阪府道2号線)
より、会場案内図を参考にお越しください。



指定医薬品・処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること
非イオン性造影剤 【薬価基準収載】
イオメロン® 300 350 400
〈イオメプロール注射液〉 **lomeron**®
300・350（尿路・CT・血管用）／400（尿路・血管用）
内容量：20mL, 50mL, 100mL



指定医薬品・処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること
非イオン性造影剤 【薬価基準収載】
イオメロン® 300シリンジ 350シリンジ
〈イオメプロール注射液〉 **lomeron**® Syringe
内容量：50mL, 75mL, 100mL



指定医薬品・処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること
非イオン性MRI用造影剤 【薬価基準収載】
プロハンス®注
〈ガドテリドール注射液〉 **ProHance**® INJECTIONS
内容量：5mL, 10mL, 15mL, 20mL



指定医薬品・処方せん医薬品：
注意—医師等の処方せんにより使用すること
非イオン性MRI用造影剤 【薬価基準収載】
プロハンス®シリンジ
〈ガドテリドール注射液〉 **ProHance**® Syringe
内容量：13mL, 17mL



製造販売元
ブラッコ・エーザイ株式会社
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-11-6



販売元
エーザイ株式会社
〒112-9088 東京都文京区小石川 4-6-10
<http://www.eisai.co.jp>



提携先
ブラッコ インターナショナル

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室
☎0120-419-497 9～18時（土・日、祝日 9～17時）

●効能・効果、用法・用量及び警告、禁忌、原則禁忌を含む
使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

ZO 0504-4C 2005年4月作成